

作って覚える Word

Word 2002を例に操作手順を解説します (Word 2007には非対応)

レシピ

第5回 表スタイルでページを装飾する

伊佐 恵子 テクニカルライター



作成中のレシピは、繰り返し使う定型文書。レイアウトを保つため、枠組みに表を利用している。表には、スタイルを簡単に設定できるメリットもある。特に、色や罫線による装飾は得意だ。レシピでも、セルの色や線種の変更を行って、ページをデザインしよう。ページの右上には、テキストボックスで料理のジャンルも表示する。

レシピの表は、料理名、説明文、材料、作り方など、各部に細かく区切られている。ただ、実際に印刷する罫線は4本のみ(完成図を参照)。ほとんどの罫線は消去して、スッキリした印象に仕上げている。また2点のカラー写真が映えるよう、色も抑え気味にした。塗りつぶすのは、料理名と説明文の背景だけだ。

表の線種やセルの色は、自由に設定できる。操作方法はいくつかあるので、状況に応じて使い分けよう。例えば今回のように罫線が少ない場合は、一度すべての罫線を消し、必要な線を引き直した方が効率的だ。

表の罫線をすべて消す

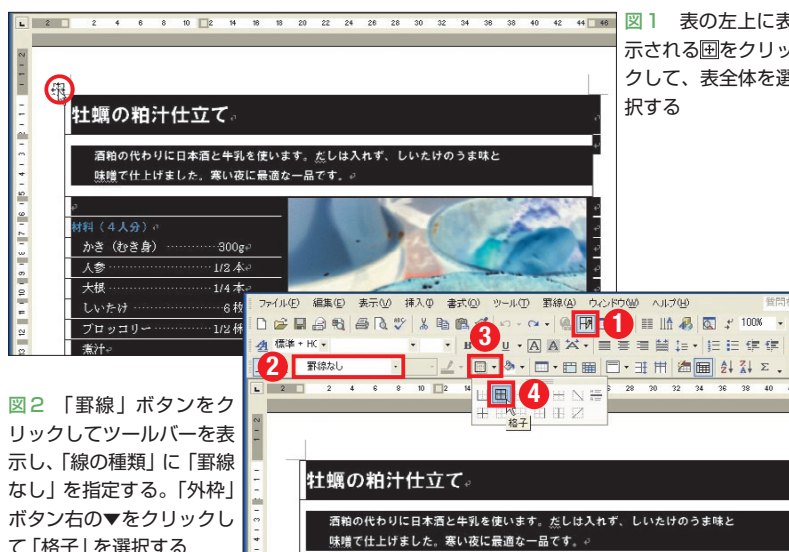


図1 表の左上に表示される罫線をクリックして、表全体を選択する

図2 「罫線」ボタンをクリックしてツールバーを表示し、「線の種類」に「罫線なし」を指定する。「外枠」ボタン右の▼をクリックして「格子」を選択する

罫線の変更位置はボタンで指定

では表の罫線をすべて消去しよう。左上の罫線ボタンをクリックして表全体を選択したら(図1)、続いて罫線ボタン(罫線)をクリックして「罫線」ツールバーを表示する(図2)。

表の罫線を変更するときは、この「罫線」ツールバーで線種や太さを選び、設定位置をボタンで指定すればよい。今回は表全体の罫線を消すので、「線の種類」に「罫線なし」を選び、位置を指定するボタンから罫線

記事に関連したファイルを、「読者向けページ」からダウンロードできます

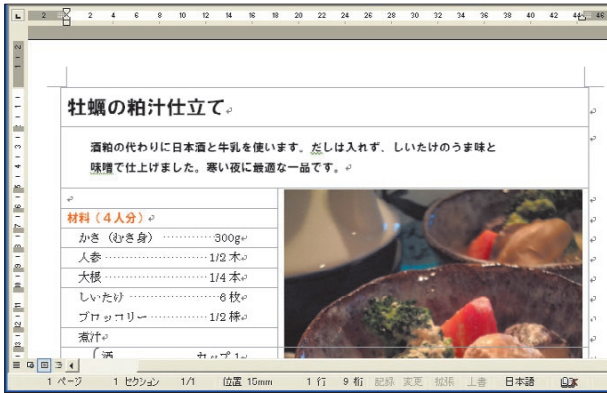


図3 表全体の罫線が削除された。薄い灰色の表示は罫線ではなく、行や列の区切りを示す「表のグリッド線」。印刷はされない

(格子)を選択した(図2)。位置を指定するボタンには初期設定で□(外枠)が表示されている。ボタン右の▼をクリックして、目的のボタンを選ぼう。これで罫線がすべて消去される(図3)。

このように、罫線のスタイルはボタン1つで一気に変更できる。今回は田(格子)を選んだが、例えば外枠は実線のままで、セルを区切る縦横の罫線だけを消したい場合は田(境界線)をクリックする。逆に、表の外枠だけを消去する場合は口(外枠)をクリックすればよい。間違えて必要な罫線を消してしまったときは、直後に元に戻す)をクリックして操作を取り消そう。なお、罫線を消しても、表には薄い灰色の線が表示されている。これは「表のグリッド線」という目安の線だ。画面上のガイドラインなので、印刷はされない。

料理名や見出しのスタイル設定をする

●セル内を塗りつぶす

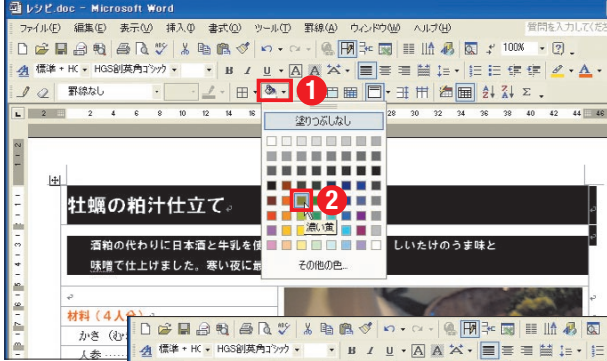


図4 1~2行目を選択する。「網かけの色」ボタン右の▼をクリックして、パレットから「濃い黄」を選ぶ

背景色で文字を際立たせる

罫線を引き直す前に、1行目(料理名)と2行目(説明文)のセル内を塗りつぶそう。セルの色も「罫線」ツールバーのボタンで設定できる。1~2行目を選択し、網かけの色)右の▼をクリックして、パレットから好みの色を選べばよい。ここでは「牡蠣の粕汁仕立て」の雰囲気に合わせて「濃い黄」を選んだ(図4)。

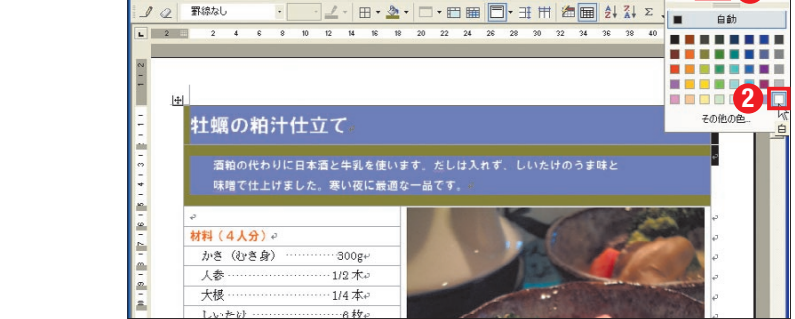


図5 セル内が濃い黄色で塗りつぶされた。セルを選択したまま「フォントの色」ボタン右の▼をクリックして、パレットから「白」を選ぶ

背景を濃い色にすると、黒い文字が読みにくくなる。A(フォントの色)で明るい色に変更しよう。ここでは白に変えた(図5)。ちなみにセルを「黒」や「濃い青」といった濃い色で塗りつぶすと、文字色が自動的に白にも変わることもある。今回のように変更されない場合は、手動で調整しよう。料理名と説明文を白抜きにしたことで、文章はより鮮明になった(図6)。

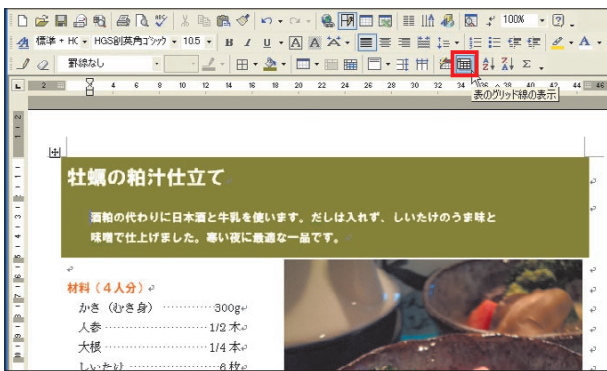







図6 料理名と説明文の文字が白抜きになった。「表のグリッド線を表示しない」をクリックして、実際の表スタイルを確認する


なお  (表のグリッド線を表示しない) をクリックすると、灰色のガイドラインが非表示になる (図6)。実際の表スタイルを確認したいときに利用しよう。ボタンをクリックするたびに、グリッド線の表示/非表示が切り替わる。

3本の罫線を同時に引く

続いて、4本の罫線を引いていこう。罫線の様子が分かるように、表のグリッド線は非表示のまま操作する。罫線の引き方にもいくつかの操作方法があるが、ここでは罫線の消去と同じく「罫線」ツールバーで線種を選択し、ボタンで位置を指定する。

まず料理名と説明文の間に白い線を1本引く。説明文のセル内 (2行目) にカーソルを移動して、線のスタイルを設定しよう。ここでは「線の種類」から「実線」を選択し (図7)、 (罫線の色) 右の▼をクリックしてパレットから「白」を選んだ (図8)。線種が決まったら、 (格子) 右の▼をクリックして  (上罫線) を選ぶ (図8)。これでカーソル位置 (2行目) の上に、白い罫線が表示される (図9)。

なお、「線の種類」や「罫線の色」を指定すると、Wordは罫線を引くモードに切り替わる。マウスポインターが鉛筆マークに変わり、そのまま表上をドラッグして罫線を引くことが可能だ。今回はボタンを使って罫線を引いたが、1行目と2行目の境界線を直接ドラッグしても構わない。この方法だと、鉛筆で線を引く感覚で操作できる。 (罫線を引く) をクリックすると、罫線を引くモードは解除される。

3つの見出しの上にも、濃い黄色の罫線を引こう。3つの見出し行を同時に選択し (図10)、 (罫線の色) から「濃い黄」を

●セルの上に罫線を引く

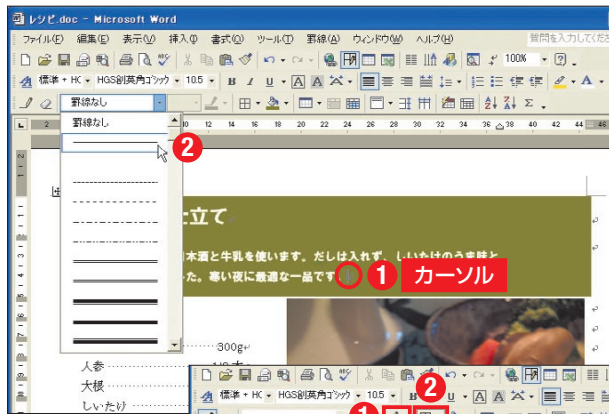


図7 説明文のセル内 (2行目) にカーソルを移動する。「線の種類」から「実線」を選ぶ

図8 「罫線の色」ボタン右の▼をクリックして、パレットから「白」を選ぶ。「格子」ボタン右の▼をクリックして「上罫線」を選択する

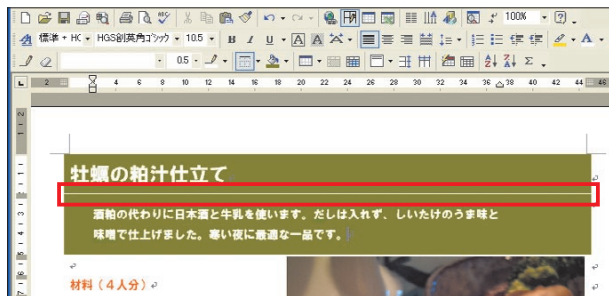
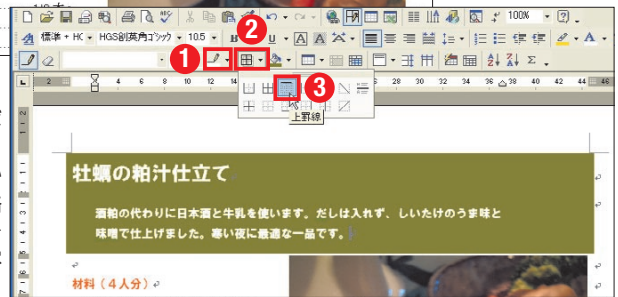


図9 2行目の上に白い罫線が引かれた

図10 3つの見出し行を同時に選択する。「罫線の色」ボタン右の▼をクリックして、パレットから「濃い黄」を選ぶ。「上罫線」ボタンをクリックする

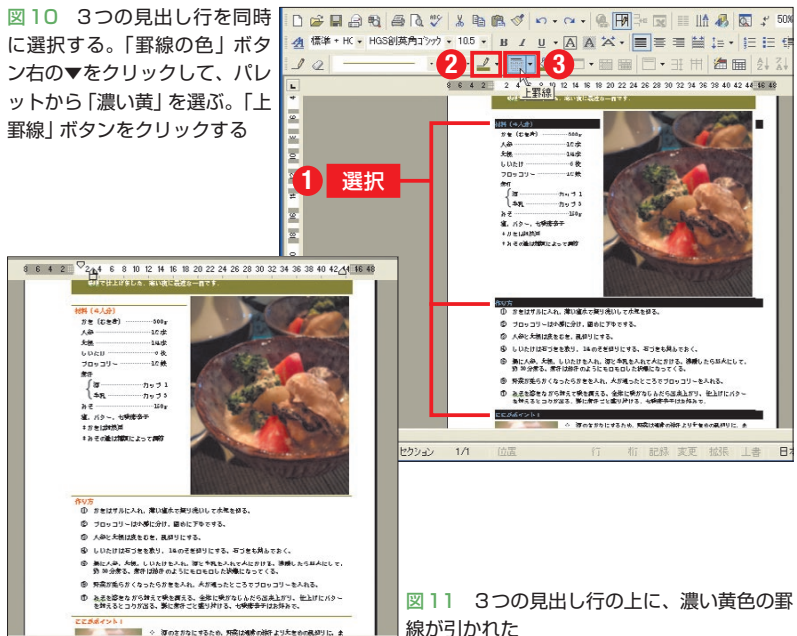


図11 3つの見出し行の上に、濃い黄色の罫線が引かれた

テキストボックスを作る

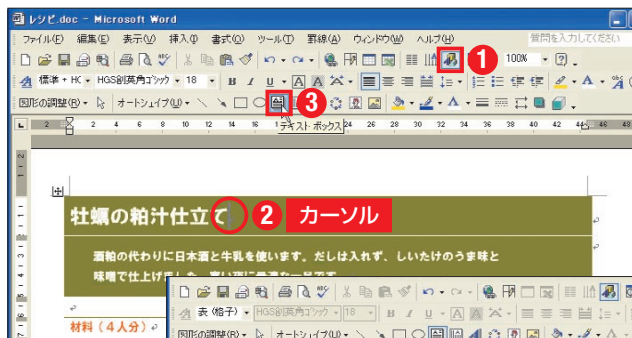


図13 [Shift] キーを押しながらドラッグして、正方形の文字枠を作る。ドラッグは描画キャンパスの外から始めよう

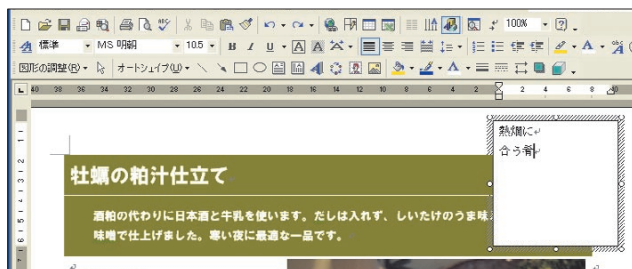
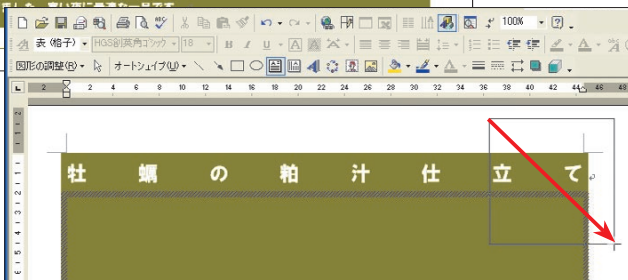


図14 テキストボックス内に「熱燗に」「合う肴」の2行を入力する

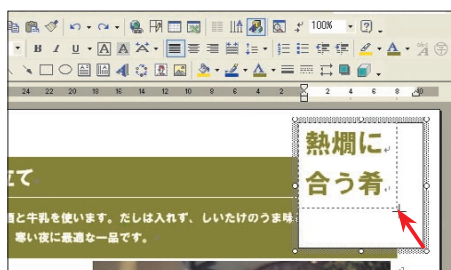


図15 文字列は24ポイントの「HGS創英角ゴシックUB」に変更。また文字色は「濃い黄」にする。右下の○を[Shift] キーを押しながらドラッグして、枠の大きさを調節する

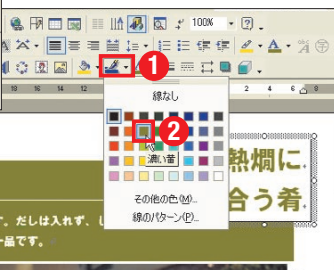


図16 枠を選択した状態で、「線の色」ボタン右の▼をクリックして、パレットから「濃い黄」を選ぶ

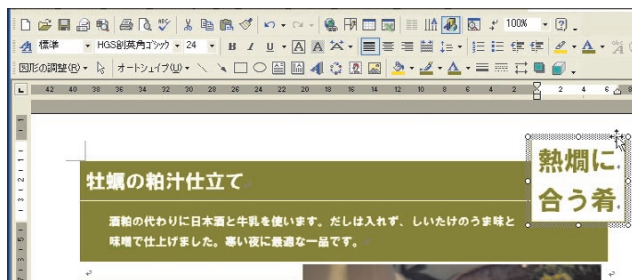






図17 枠線が濃い黄色に変わった。テキストボックスの位置は、周囲の枠部分をドラッグして調節する

選び、 (上罫線) をクリックすればよい(図10)。ボタンを使うと、このように複数の罫線も同時に引くことができる(図11)。

正方形の文字枠を配置する

最後に、表の右上部に料理のジャンル「熱燗に合う肴」を表示しよう。文字列は「テキストボックス」という枠を使って配置する。テキストボックスの操作には「図形描画」ツールバーを利用するので、 (図形描画) をクリックしよう(図12)。「罫線」ツールバーは邪魔なので (罫線) をクリックして消しておく。

準備ができたなら、テキストボックスの挿入位置(料理名の末尾)にカーソルを移動して、 (テキストボックス) をクリックする(図12)。マウスポインターが+に変わるので、左上から対角にドラッグして文字枠を作ろう(図13)。ドラッグは表の外側から開始する。なお、正方形の枠を作るときは、[Shift] キーを押しながらドラッグする。

作成直後のテキストボックス内には、カーソルが表示される。そのまま「熱燗に」「合う肴」の2行を入力しよう(図14)。文字スタイルも通常通り設定可能だ。ここでは文字列全体を24ポイントの「HGS創英角ゴシックUB」に変更し、文字色は「濃い黄」に設定した(図15)。

枠のサイズは周囲の○をドラッグして調節する。正方形を保つため、[Shift] キーを押しながら右下の○をドラッグしよう(図15)。枠線や内部の色も自由に設定できる。今回は表の色と合わせるため、枠線の色を「濃い黄」にした(図16)。枠の位置は、周囲の枠部分をドラッグして調節しよう(図17)。